The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	田川・池上両先生のご退官に寄せて
Author(s)	内田, 憲男
Citation	大阪外大英米研究. 1999, 23, p. 15-16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99216
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

田川・池上両先生のご退官に寄せて

内　田　憲　男

本学年度(平成10年度)をもって、田川・池上両先生が大阪外国語大学を定年退職されることになった。今、両先生のご経歴を机上にして、小生が外大に勤務してから同じ英語のスタッフとして経験させてもらった両先生のことをあれこれなつかしく思い出させて頂いているところである。この場を借りて、僭越ながら小生の見た両先生の人となりの一端を紹介させて頂きたいと思う。

池上先生とは、先生が大学改革前は二部英語学科に所属されていたせいもあって、残念ながら親しくお話をお伺いすることもなく、二部学生に黒人文学を中心にアメリカ文学を熱心に教授されていると人づてにうかがう程度であったが、近年の大学院拡充後、院生の研究発表に同席させて頂く機会があり、そのときにはじめて先生の学者魂とも言うべきものを垣間見させて頂いた。当の院生の発表は門外漢の小生にはまずまず出来の良いものに思えたのだが、発表の対象とされている作家について著書も書いておられる先生は、実にきびしいコメントを加えられ、己れの信念にもとづいてその院生に研究者としてのあるべき姿勢を説かれたのである。些かも妥協も許さないといったそのご意見は、先生の深い学識に裏打ちされていればこそのことであったろうと思う。小生のようなともすれば物事を甘く考えてしまいがちな人間には学ぶべきひとつの教訓であった。

田川先生には公私にわたって本当にお世話になった。学生時代は先生のご専門であるアメリカ演劇の演習授業で一年間教わっただけだったが、スタッフの仲間入りをさせて頂いてからは、一々述べることははばかられるが、折

にふれさりげなく注意してくださったことが教師としての仕事を続けていくうえでとても参考になった。先生はストレートな物言いはなされないが、いつも韜晦的におっしゃる一言一言が、あとで考えると実に味わい深く、そのような先生の繊細な心の働きように度々接することができたのは、小生にとって人生の得難い宝物のひとつである。英語のスタッフのなかで田川先生が果たされた役割で是非とも言っておかなくてはならないのは、教育研究の面でのご功績はもちろんであるが、何よりも組織の潤滑油としての働きである。個人的な好悪の感情はいっさい表に出されることなく、常にスタッフ間の和を第一に考えることに徹せられた。厄介な問題で時として同僚間に軋轢が生じたとき、先生の座をなごませる一言で救われたことも再々あった。先生のジョーク好きは同僚のだれ一人として知らぬ者はいないが、おそらく、ジョークを考えられるときの物事をつき放してながめてみる心性が、会議などの場においてもうまく生かされていたのだと思う。大学改革のときに先生は学生部長職を献身的に務められたが、そのときもぶつかり合う意見のまとめ役として大活躍されたことを、たまたま小生も委員会などでそばにいたので、今も鮮明に思い出すことができる。

両先生とも長年外大のために尽くしてこられて、やっと肩の荷がおりるとほっとされていらっしゃることだろうと存じますが、今後とも私たち英語のスタッフの良き相談相手でいつづけてくださいます様、ここにあらためてお願い申し上げます。